

支えていただき感謝

有限会社田中農場 代表取締役 田中 里志

この度は普及事業70周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

私と普及員さんとの関わりは思い起こせば約20年前に遡ります。農業を営む家に生まれた私は、倉吉農業高校に進学し農業の基礎を学び、高校卒業後は北海道へ渡り2年間の農業研修を経験し20歳の時に帰郷し就農いたしました。そんな時、まだまだ未熟な私の手を引き地元新規就農者の集まりへ誘って頂いたのが普及員さんでした。



当時、農業は若手が少ないという認識で鳥取へ帰ってきましたが、同世代の新規就農者に出会い、お互いの農園を巡回視察したり集まる度に情報交換をしたりと、農業という同じ職種の間が出来たことに心強さを憶えたのを懐かしく思い出されます。

就農以来、長引く米価の低迷や農家の高齢化に伴う離農で耕作依頼は増え続け、気が付けばこの20年で耕作面積は倍増いたしました。毎年規模拡大を続けてこられたのも、普及員さんや試験場の研究員の皆様からの支えがあったからこそです。

規模拡大に伴い増える社員や志ある地域農家の知識向上のための勉強会も企画して頂いた事もありました。そして毎年、省力化に繋がる新たな技術や新品種の栽培技術、病虫害発生や防除についての情報を頂いたり、最近ではJGAP認証に向けての研修会開催や推進のサポートなど、常に寄り添って支えて頂いています。正に、我々農家にとって大きな味方であり、かけがえの無い存在、それが普及員さんです。

あって当たり前と農家に思われがちな普及事業ですが、この度の記念誌寄稿にあたり、一つ一つのエピソードを思い起こす度にその存在の大きさ、そして夏の炎天下でも寒風吹きすさぶ冬空の下でも研究と指導に勤しまれる普及員さんの活動に感謝の想いが溢れてまいります。普及員の皆様、心から「有難うございます！」

地球温暖化に伴う異常気象により、想定を超える天候不順が起こる可能性は毎年高まる一方と危惧いたしますが、暑さ寒さに負けない新品種の育成や栽培技術革新により作物生産におけるリスクは減らすことは出来、そして更なる高品質高収益な作物生産は可能になると信じています。

この先、働き手不足と超高齢化社会を迎えると共に日本社会の更なるグローバル化が進む中で、日本は基より世界から選ばれる農産物の生産、働き手から選ばれる職種として農業を発展させる必要があります、その実現のために今後は我々農家と普及事業が今まで以上に連携し革新的な普及事業サイクルの展開が求められます。

100年先200年先の農業イメージを持ち、地域そして日本を支える産業、農業発展のため我々農家と共に邁進してまいりましょう。

普及員の皆様のご活躍と普及事業の今後益々のご発展を祈念申し上げます。